

Active Librarian

中村 瞳 さん (東金市立東金図書館・主任主事)

—— 10年表彰おめでとうございます。まず、図書館に勤務することになったきっかけを教えてください。

子どもの頃から本が好きで、姉の読んでいた本をもらって読んだり、地元の図書室に通って本を借りて読んだり、中学生の頃は学校の帰りに図書室に通っていたので、その頃から漠然とではありますがなんらかのかたちで本にかかわることができるような仕事に就きたいと思うようになりました。

司書資格はありませんが、幸運なことに図書館に配属され、今に至ります。

—— これまで10年間、図書館で働いてきた感想はいかがですか？

図書館で仕事をするまでは、本の貸し出しや返却、幼児向けのおはなし会以外の行事はあまりイメージがありませんでしたが、実際は教養講座など大人向けの行事もたくさんあり、幅広い世代に利用されているんだとあらためて感じました。

また、わからないような状態から仕事をしてきて、当館の職員はもちろんのこと、利用者の方などたくさんの方々に支えていただいたおかげで、なんとかやってこれた。そして、あっという間の10年だったように感じます。

—— 今まで、主にどんな業務に携わってきましたか？

夏休みの子供向けのおはなし会や一日図書館員を担当したり、教養講座を担当したりしました。

このときにふとしたご縁で石津ちひろさんに講演をお願いすることができ、「えほんの世界、ことばのせかい」というお話をいただき、ご自分のお子さんを通しての体験を基に書かれた本や回文などのことばの魅力についてのお話が心に残っています。

現在は督促などを担当しています。

—— 10年間を振り返って、何かエピソードがあればお聞かせください。

幼児向けのおはなし会に参加していたお子さんが小学生になり、一日図書館員をしに来たり、中学生になって職場体験に来たりしているのを見ると、10年という歳月の長さをあらためて感じます。

赤ちゃんのころから中学生、高校生になっても図書館を利用してくれている人たもいるので、そういう利用者に自分も図書館も支えられているので、この図書館にいくつになっても通いたい、利用したいと思ってもらえるような場所になればいいなと思います。

—— ズバリ、あなたにとって、図書館とは？

毎日だれかの「見たい」や「知りたい」に寄り添って自分も成長できる場所だと思います。

利用者の調べもののお手伝いをしていたりするなかで自分の知らなかったことに出会ったりすることも多いので、日々発見、日々勉強の毎

日だと思います。

また「久しぶりだね。元気だった？」など気さくに話しかけてくれる利用者も多いので、たくさんのお客が集まる場所のような感覚もあります。

——— 読書以外の趣味はありますか？

音楽を聴くのが好きです。小田和正さんやスピッツなどを聴いたりします。

きれいな声と美しい言葉で紡がれる歌詞は本を読むときと同じように想像力をかきたてられるような気がします。

趣味といえるかどうかわかりませんが、友人と会ってお茶をしながら他愛もない話をする時間も心が和むとても好きな時間です。

——— 愛読している本や作家、特にお気に入りのジャンルがあれば教えてください。

新刊が出たら必ず読むというような作家は特にはいませんが、比較的によく読むのは有川浩さんや重松清さんの作品をよく読んでいます。

意識しているわけではないですが、「アンマーとぼくら」や「その日のまえに」、「とんび」など家族をテーマにした作品を読むことが多いです。小説だけではなくマンガも好きで「夜明けの図書館」や「宇宙兄弟」といったいわゆるお仕事マンガなども読んでいて、気になった本はとりあえず読むようにしています。

——— ご自分の勤務する図書館のアピールをどうぞ。

私の勤務する東金市立東金図書館は、ブックスタートから始まって「赤ちゃんを楽しむ絵本とわらべうたの会」、「親子で楽しむおはなし会」などの乳幼児向け事業、教養講座などの一般向けの事業や市のマスコットキャラクター「とっちー」などがデザインされたオリジナルの読書

通帳を用意して幅広い年代の方に利用していただける親しみやすい身近な地域の図書館を目指しています。

これからも小さな図書館ながらできること、小さな図書館だからできることをコツコツやっていく図書館でありたいと思います。

——— 最後に、今後の抱負があればお聞かせください。

周りの人の支えがあり、10年間続けてこられたことに感謝をしつつ、ほかの職員のみなさんといっしょに利用者のみなさんの「見たい」、「知りたい」のニーズにあった身近で親しみやすい誰もが来たくなるような図書館づくりに微力ながら携わっていかれたらと思っています。

(インタビュアー 板倉 安成)

★ おすすめの本を紹介してもらいました ★

『ツバキ文具店』 小川 糸 著／幻冬舎
祖母の死をきっかけに家業の文具店を継いで手紙の代筆業をすることになった主人公鳩子の物語。

連絡をとりあうためのツールとして電話やメールがあたりまえになってしまった現在ですが、そんな今だからこそ、手書きの手紙で伝えるということの大切さに気づかされた一冊でした。

私もたまに手紙を書きますが、読んでからはもっと頻りに手紙を書きたいと思うようになりました。

『りゆうがあります』

ヨシタケシンスケ 著／PHP研究所
ものごとには理由がある。ぼくが鼻をほじっちゃうのにも実はちゃんと理由がある。

大人も子どもも思わずくすくすと笑っちゃう理由がいっぱい。

とてもユーモアがあって大好きな一冊です。



小倉康志さん(富里市立図書館・主査補)



—— 担当している業務を教えてください。

小倉：現在は、一般書と視聴覚資料の選書の外、電算システムとホームページ管理、図書購入の予算管理、ボランティア関係、映画会の開催等を主に担当しています。以前に図書館にいた時よりも担当する業務量も増えたので、日々勉強しながら業務に励んでいます。

—— 自己紹介をお願いします。

小倉：富里市立図書館主査補、小倉康志です。今年4月の人事異動により配属となりました。図書館に配属になるのは、実は2回目です。この度4年ぶりに戻ってきました。

—— 図書館の仕事で大変なことはどんなことですか？

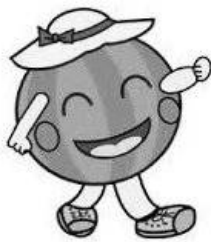
小倉：個人的にはブランクがあったことがまず1つ目に変な点でしょうか。周りの職員からすれば「当然覚えてるよね？」といった感じで話しかけてくることを、こちらは完全に忘れていた。みたいなことが年度当初よくありました。それから、大変というよりは難しいという方が正しい気もしますが、図書館にいらっしゃる、小さいお子様や大人、お年寄り、障害をお持ちの方等、様々な方々の多様なニーズにどう答えていけばいいのか？という点でしょうか。どの部署でも課題として挙げられるところではありますが、図書館は多くのお客様に来ていただく場所ですので、より細かなニーズの把握が必要だと思っています。利用者が求めるものは、それぞれであり、すべての人が満足していただけることを目指して、そのニーズをどのような方法で把握していくなど、難しいですが、今まで配属された行政部門での経験や知識を活かしていきたいと思っています。

—— 好きな本、オススメの本を教えてください。

小倉：最近、あまり読む時間が無いのですが推理小説だけは今でも読み続けています。お気に入りの作家の作品を読むのが常ですが、その中でも「占星術殺人事件」島田荘司が、一番好きな推理小説です。ここでわざわざ紹介するほどのコトもない有名すぎる作品ですし、初版が1981年と大分古い作品ですが、今でも愛読しています。御手洗シリーズは最近、映像化もされて話題になりましたけど、私の中で、主人公の御手洗潔はこの作品を最初に読んだ時から不変のヒーローです。まだ、未読でカッコいい探偵ものが好きな方がいたらぜひ読んで欲しいですね。

★★★ ちょっと休憩 ★★★

富里と言えば、そうです「富里スイカロードレース大会」平成28年6月26日に行われた大会には12,445人のランナーが参加しました。この大会で用意されたスイカは、なんと約2,600個、この一日で、ランナーのお腹にすべて入ります。驚きましたか？



—— 図書館で働いていて楽しいことはどんなことですか？

小倉：館内で上映する映画会を私が担当させていただいているので、自分の選定した作品で多くのお客様に来てもらったときは、嬉しいです。

ただ、小学生や大人の方に比べると、中高生のお客様が少ないように感じているので、そういった方たちにも来ていただけるような映画会が開催できるようにしていきたいです。

—— 今後、図書館でどのような業務に取り組んでみたいですか？

小倉：今、私が担当しているボランティア関係の業務で、長期休暇中の高校生ボランティアの関係の業務をやらせてもらっているのですが、もう少し人数を増やすように取り組みたいと思っています。今年の夏休みも1人だけの参加でしたので、もっと多くの方に参加してもらえるように、お知らせの仕方であったり、希望があれば活動内容の見直しであったり考えていきたいです。

—— 最後に図書館のPRをお願いします。

小倉：富里市立図書館は、開館してから今年で13年目の図書館です。開館当時の話になりますが、ICタグを用いた「次世代型IC図書館システム」を導入した先駆的な図書館でもあります。現在は、通常の図書館業務に加え、講師をお招きしての成人向けの講演会やお子様向けの科学遊び教室等、富里市立図書館独自の事業にも力を入れています。今後についても普段から図書館をご利用いただいている方はもちろん、今まで図書館を利用したことのない方に対して少しでも図書館にお越しいただけるような、そんな取り組みをしていきたいです。富里市は駅も無いですし、交通の便はあまり良くないですが、一人でも多くの方にお越しいただけるよう職員一同努めてまいりますので、皆様のお越しをお待ちしております。

★★★★★ おわりに ★★★★★

今回で2度目の図書館ですが、多少でも環境の変化に戸惑ったと思います。以前の経験や他の行政部門で学んだことも活かしながら、今後の活躍に期待しています。余談ですが、富里市が記事を担当すると必ずスイカや馬に関連したイラストなどが、掲出されます。見苦しいと思いますが、ご容赦願います。

(富里市立図書館)



▲ 馬のセリの様子